

=私たちの活動 4つの柱=
 *制度化と指導員の身分保障
 *専門性と仕事の確立
 *父母と共に学童保育運動の発展
 *全国の指導員との団結と連帯

45年間、補助金ゼロからの運動ー姫路どんぐりクラブ

議員要請を重ねる

飾磨学童保育所（どんぐりクラブ）は、2001年8月に、一般社団法人を立ち上げ、市の補助金団体となりました。それまで45年間は共同保育でした。

市の方針転換により民間学童にも補助金を支給することになりましたが、年間2回に分けての支給でした。

1回目は10月から11月（基準、厚労省資料、運営指針）をもちこみ、懇談と要望を重ねました。議会では、指導員の労働条件の低さが取り上げられるようになり、全国中核市の中で、常勤がないのは姫路市を含め

月、2回目は翌年の5月末です。ここでは、補助金の意味はなく、どんぐりの財政は火の車でした。指導員の給与はひどい時は4〜5カ月の遅配でした。組合でも交渉しましたが、うちがあきません。この年くらいから議会活動を重視する方針を出し、議員懇談を重ねました。学童保育を知ってもらうため、いろんな資料（基準、厚労省資料、運営指針）をもちこみ、懇談と要望を重ねました。議会では、指導員の労働条件の低さが取り上げられるようになり、全国中核市の中で、常勤がないのは姫路市を含め

全国学童保育部会総会

9月19日（日）ZOOMにて
 ZOOM受付：9時～
 総会：9：30～17：00

*各地には、中央本部より通達が届いていると思います。

学童保育の制度を前進させる時です。すべての地域より、参加をお願いします。

3市だけということに対して委員会結語の中で2回も取り上げられ、やっと常勤者の必要性が問題視されてきました。

このような流れの中で、民間の補助金支給を年4回にという陳情を出しました（2020年6月）。市は、民間7カ所のうち4カ所がこのままで良いというので、このままで良いという答弁をしました。しかし、今年に入り、年3回にすると伝えられました。7月に5/12、11月に5/12、5月に2/12）

補助金、未だ不十分

未だ不十分

やっと動いたとホッとしました。室長の言い分は、あなた方がうるさく言うからそうした。とほかのこともすんなり聞いてくれればいいのと思いが、お金のかわらないことに対して便宜を

次にはまた問題が、今年度より家賃補助（上限366万）を行うということになりました。民間では2カ所が該当します。しかし、どんぐりクラブは2015年以前に立ち上がっていたので、対象外とするということになりました。また議会に陳情を出しました。

この陳情を見た議員が、すぐ訪ねて来てくれました。また、文教子育て委員会においても取り上げられ、片方は補助され、片方はずっと10年20年されないということかと思わず口を出した委員長の発言に、市当局は冷たく「はい、そうです。」と答えました。

た。どんぐりは、今、園庭を広げ、家賃だけで月10万円、年間120万円のかがります。どんぐりクラブが受けている補助金は年間570万円なので、そこから120万円を家賃として支出しなければなりません。

姫路市の学童保育の予算は、2015年度より2億円基準値より低いとされ、処遇改善がうけることができません。2016年度より、2億円を余らせて決算してきましたが、今年の予算は前年度より1億円減っています。

子どもたちのために、当然つかうべき予算をしっかりと使う市政を強く願います。これからも地道に闘い続けていくしかないです。

（姫路学童保育支部

笹木陽子）